

令和6年度シラバス

教科	科目	単位数	履修学年・クラス
公民	倫理	2	3-5~3-A (文系)

1. 学習の到達目標

1. 倫理の学習が、人間のあり方・生き方にかかわるものであることを学ばせる。
2. 先人の経験や学問・技術に学び、客観的に見つめ自覚的に捉えられるよう学ばせる。
3. 生徒の当面する課題などを中心に、先哲の考え方を学び自らの課題を積極的に解決していく力を育む。

2. 学習の計画

	学 習 内 容	学 習 の ね ら い
1 学期	第1章 人間の心のあり方 ・人間とは何か ・人間の心の動き 第2章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅰ ・哲学すること ・ギリシャの思想 ・宗教と社会（キリスト教・イスラーム） ・仏教 ・中国の思想 ・芸術	○「倫理」の学習の導入として、さまざまな人間の定義を整理して、人間の特質について多面的・多角的に考察する。 ○認知活動と知覚、学習の法則、記憶のプロセス、推論と問題解決について、心理学の基本的な用語や考え方を理解する。 ○「哲学」の意味や、「哲学すること」の意義について、多面的・多角的に考察し、自己の在り方生き方や社会の在り方、世界の在り方の考察に関連付ける。 ○自然哲学の思想にみられる自然と人間との関わりや、世界を捉える知の在り方について多面的・多角的に考察する。 ○人生における宗教の意義や、宗教が人間や社会に与えた影響について、歴史的な事実を手がかりにして理解する。
2 学期	第4章 国際社会に生きる日本人の自覚 ・日本人の精神風土 ・仏教と日本人の思想形成 ・儒教と日本人の思想形成 ・国学の思想 ・庶民の思想 ・西洋思想と日本人の近代化 ・国際社会に生きる日本人の自覚 第3章 さまざまな人生観・倫理観・世界観Ⅱ ・近代と人間尊重の精神 ・近代思想の展開	○日本人の自然観の特質について、伝統的な行事や日常なことば、作法の背後に見出せる自然観を話し合う。 ○日本の仏教受容について、仏教の伝来と奈良仏教、平安仏教の展開、神仏習合の考え方を理解しながら、外来思想である仏教をどのように理解し変容させたのかを考えさせる。 ○代表的な国学者の思想を理解しながら、国学が見出した古来の日本人の心情や、国学の思想がその後の日本に及ぼした影響について多面的・多角的に考察する。 ○西洋文化との接触過程や日本の精神的基盤、代表的な思想家の考え方を理解させる。 ○ルネサンスや宗教改革、近代科学の諸思想について、多面的・多角的に考察しながら理解度や考えたことを発表させる。
3 学期	・人格の尊厳と人倫の思想 ・社会変革の倫理を求めて ・自然や科学技術と人間のかかわり ・民主社会の成熟のために 第5章 現代の課題を考える ・生命・自然・科学技術・福祉・文化と宗教 ・戦争と平和	○ベーコンとデカルトの思想について、両者の共通点と相違点や、現代の価値観に与えた影響について考察させる。 ○社会契約説や自然法思想、啓蒙主義に関する代表的な思想について、ホッブズ、ロック、ルソーの思想の共通点と相違点や、現代の社会や制度、価値観に与えた影響を考える。 ○日本人の自然観の特質について、伝統的な行事や日常なことば、作法の背後に見出せる自然観を話し合わせる。

3. 評価方法・評価の観点

評価方法	定期試験（中間 期末）、平常点（ノート提出・宿題提出含む）
------	-------------------------------

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的態度
評価の内容	現代の倫理的課題を捉え、他者と共によりよく生きる人間のあり方について自己の確立の課題として考え、選択・判断するための手がかりとなる理論について理解している。	良識ある公民としての広い視野に立つことで、主体的かつ公正な判断をしている。	知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けて粘り強い取り組みを行おうとしている。

4. 使用教科書・副教材

使用教科書	倫理（東京書籍）
副教材	要点マスター倫理（東京書籍）